

平成27年度 学校評価シート

学校名: 和歌山県立熊野高等学校 学校長名: 庄田 卓爾

目指す学校像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校
育てたい生徒像	幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒

本年度の重点目標	1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

達成度	A 十分に達成した (80%以上)
	B 概ね達成した (60%以上)
	C あまり十分でない (40%以上)
	D 不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方針の公表の方法
インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 3 0 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方針
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいる。しかし、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、家庭学習も疎かになりがちである。そのため教員の授業力向上はもとより、生徒たちに目的意識をもたせる働きが必要と考えられる。	教員が授業研究等を行うことで授業力向上を図っているか。生徒の主体性向上のための、方策が取られているか。科目選択等を通じて、生徒の目的意識向上を図っているか。	上富田町の小中高連携での授業研究を実施し、積極的に各教員が参加し、異校種からの多角的な視点を取り入れ各自の授業力向上を図る。家庭での学習習慣の定着のため、定期的な学習課題を提供するとともにその内容も吟味する。その一方で生徒による授業評価を実施する。生徒各自の進路に即した科目選択ができるよう丁寧な指導をおこなう。	研究授業、研究協議を実施した際には、教科の枠を超えて内容を共有できるような情報提供の機会を確保する。課題テストや小テストの実施 生徒による授業評価の実施 科目選択を実施するうえで、できる限り生徒の希望が叶うよう配慮する。	各教科で公開授業を実施し、各自の授業改善に生かした。また、アクティブラーニングに向けて、先進校視察を行ったうえで、早速一部で導入するとともに現職教育を実施し、理解を共有した。朝学の時間に小テストを行い、基礎学力の向上に努めた。科目選択も大きな問題なく進んだ。	A	新しい試みとなるアクティブラーニングの導入となると、教員各自がさらに高い意識をもつ必要が出てくる上に、予期しない問題点も発生する可能性もあるため、教員間の連携を密にし情報を共有して取り組む必要がある。
2	総合学科では生徒の進路決定率が96%と昨年と同様だった。今年度もきめ細い進路指導を行い進路未定者を減らす努力をしていきたい。 専攻科においては33名の卒業生と32名の看護師国家試験合格者を出すことができた。今年度も引き続き多くの卒業生を出すことを目標に国家試験合格を目指して努力して行きたい。	生徒の進路実現に向けての取り組みがなされているか。生徒自身が自ら考え行動し決定する指導ができてきているか。看護科5年間の継続した指導が行われているか。	進学・就職に対応できる学力を身につけさせる。 キャリア教育を通じて勤労観・職業観を高める。 看護科においては卒業生の体験談や異学年との交流を通して進路に対する目的意識を高める。	実力テスト等での低学力者の10%減少。 インターンシップや校内ガイダンスの効果的な実施。 生徒への継続的な進路指導の実施。	○学習への取組が向上し実力テストの成績も良くなりつつある。 ○就職決定率が昨年より上昇した。 ○専攻科への進学率も安定してきている。	A	○進路決定に向けて動き出しの遅い生徒が数名いる。一面談やガイダンスを通して進路意識を高める。 ○専攻科への進学率も安定してきている。
3	サポーターズリーダー部をはじめ農業クラブ、吹奏楽・読み聞かせサークル等において地域に関わる多くの活動を行い、さらに上富田町と共同防災訓練を実施している。こうした活動の成果の共有化を図ってきたが、さらに多くの生徒・職員の参加を促す必要がある。	ボランティア等地域活動についてその意義を理解して参加できているか。また、取り組みの成果が校内で共有化できているか。防災訓練を通して自ら守ることともに、高校生として、地域でどのような行動を取るべきかを理解しているか。	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。 マンスリータイムスやアセンブリ等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。 上富田町と共同の総合防災訓練を行う。消防署の指導により救命救命訓練を行う。ホームルームやアセンブリにおいて適宜防災教育を行う。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年3回以上とする。 地域での活動を広報やアセンブリ時に積極的に取り上げる。 緊急時の退避行動を迅速にとることができる。救命措置を適切に行うことができる。自発的に地域連携の行動をとることができる。	ホームページやマンスリータイムズを通じた広報(主に教頭担当)や各クラブの活動、学習発表会、TVなどのメディアによって、生徒職員ともに地域に関わる意識は高められた。 また、恒例となっている上富田町との合同防災訓練・防災講座は自らの安全を守るとともに高校生としての役割を自覚する機会となっている。	B	今年度上富田町まちづくり連携協定を結んだ。これまでの活動に加え、授業や学校行事において地域との連携を深める必要がある。特に人的な交流が高めることが重要である。 防災教育についてはより生徒の自主的な活動を目指している。合同訓練の具体的なメニューで工夫を重ねて行きたい。
4	指導件数は少なく、暴力事象等大きな問題行動も減少傾向にあるが更なる挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的な生活習慣の確立を生徒全員が行えるよう、継続した指導を行っていく。また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。	頭髮服装指導 新入生宿泊研修 駐輪指導 遅刻・無断欠課防止週間 登校時自転車通学指導	学年アセンブリで点検指導の後も指導を継続する。校内巡視及び校門指導等の事後指導等を行う。 遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行う。 些細な事象でも見逃さず継続した指導を行う。	○継続指導により頭髮、服装等の指導は概ね行う事ができた。 ○各学年の生活指導担当を中心に協力し合い問題の早期発見、解決がある程度行う事ができた。	B	○生活指導の分掌でない教員がどれだけ妥協せず、毅然とした態度での指導が行えるか。 ○各学年全体での指導をより一層充実させていく。 ○挨拶などのマナーを宿泊研修以後、どれだけ継続、発展させていけるか。

学校関係者からの意見・要望・評価等
平成 28 年 2 月 26 日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
生徒が元気に挨拶をすること、地域連携に積極的に関わっている事、クラブ活動に熱心に取り組んでいる事などが高く評価されていた。本校が特に力を入れているクラブ活動や地域連携、挨拶等が評価されたことで、日々の活動に確信を持ち勇気づけられた。
しかし一方で、クラブ活動のあり方、特に保護者との連絡・連携について、日々の連絡や会計報告等の改善を指摘された。同じくクラブ活動に関しては、クラブ終了後の帰宅時間が遅い事と定期考査前の特別練習が生徒にとって負担になっていないかとの指摘があり、保護者との連携・連絡も含め関係部署の課題とした。
また、学習面においては、授業態度や授業のレベルを指摘する声もあった。これに関してはアクティブラーニング法の導入や文部科学省の研究指定を受けるなどして積極的に授業改善に取り組んでいるところである。
また、学校内の様子が分かりにくいとの指摘があり、熊高タイムズや本校ホームページを利用した広報活動や学校開放週間などを設けて授業公開をする等の提案もあった。本校としても地域に根ざした学校を目指しているところであり、学校からの情報発信に積極的に取り組んでいく所存である。